

元気いっぱい、感動いっぱい、友達いっぱい！ 踏みだそう最初の一步「オープン・ザ・ドア！」

Open the Door!

国立妙高青少年自然の家
コミュニケーションマガジン

Vol.13

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家
コミュニケーションマガジン

Open the Door!

最新情報は…

国立妙高青少年自然の家

検索



将来を担う子供たちのために 妙高の自然環境を活かしたい

特集1 体験活動を通じた青少年の自立
特集2 妙高活動プログラムマップ



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家

〒949-2235 新潟県 妙高市大字関山 6323-2
TEL 0255-82-4321 FAX 0255-82-4325
<https://myoko.niye.go.jp/>



Open the Door! Vol.13 平成 31 年 3 月発行



先日、国立妙高青少年自然の家を訪ねた。招致に尽力された内田様のお話を全職員でお聞きしました。今年度着任した私自身、そしてほとんどの職員が初めて聞く内容でした。「将来を担う子供たちのために妙高の自然環境を活かしたい」、そうした地元の人たちの熱い思いが大勢の人々を動かす、国立で最後の十四番目の施設が誕生したそうです。「産みの苦しみ」という言葉がありますが、当時の関係者の方々の「苦労は並々ならぬものだったがに違いない」と思いを馳せるとともに、その夢や志を大事にしていこうと決意を新たにしました。

国立青少年教育振興機構では、第三期中期目標・計画期間（2016～2020）の折り返しを過ぎ、次期の目標・計画策定の準備を始めました。各施設の特色を出し、取組の重点化を全職員で進めています。前述の講話もその職員研修の冒頭に実施したものです。まさに、「創業垂統（継ぐべき根幹を明確にする）」と「継体守文（妙高らしさを守っていく）」です。

雪や源流の体験、アクセスのよさ等々、妙高には魅力が豊富です。その強みを今まで以上に幅広い年代の皆様と感じていただけるようにしていきたいと考えています。特に、就学前の幼児の皆さんやその保護者の方々、高校生等を対象にした事業を展開していきたいと考えています。また、利用者の大半を占める学校団体に対しては、教育活動がより充実するような情報提供を心掛けていこうと考えています。

特集1では、長期キャンプや幼児キャンプ等について紹介するとともに、事業や施設整備を支えてくださるボランティアの方々の活躍や育成の様子をお伝えします。特集2では、妙高の自然環境等を活かした活動プログラムを紹介しています。全国的に学校における行事の精選が進み、係る時数が減少傾向にある中、各教科等と関連付けたプログラムの開発・提案をより充実させていかなければなりません。利用団体の皆様からも、「こんな活動ができればいいな」といったアイデアをお寄せいただければ幸いです。

開所以来の総利用者数は、2018年8月に三百万人を超えました。また、2021年には三十周年を迎えます。これからも「妙高プライド」「妙高品質」を大切に、それを支える「さわやか挨拶心の笑顔」をモットーに職員一同、所の運営に当たってまいります。

皆様のご批正を賜りたくお願ひ申し上げます。そして、皆様のご利用を心よりお待ちしております。

将来を担う子供たちのために 妙高の自然環境を活かしたい



幼児キャンプ



MYOKO
チャレンジ

体験活動を通じた 青少年の自立

特集1

青少年
ボランティアの
活動



国立青少年教育振興機構は、青少年に対して様々な体験活動を提供することで「体験活動を通じた青少年の自立」を促すことをミッションとしています。

国立妙高青少年自然の家においても、広大な豊かなフィールドと四季折々の自然を活用しながら、様々な手法を用いて「体験活動を通じた青少年の自立」を促していくための取組を行っています。

今回のオープン・ザ・ドアでは、国立妙高青少年自然の家で実施している青少年の年代に応じた取組として、

- ① 幼児と保護者を対象とした「幼児キャンプ」
- ② 小中学生を対象とした「MYOKOチャレンジ」
- ③ 高校生、大学生を対象とした「青少年ボランティアの活動」

そして、

「青少年ボランティアの活動」

について特集を組みました。

それぞれの特色とともに、事業の様子をご紹介します。

保護者の声

源流探検では水が冷たくて最初、泣いていた息子が慣れてくるにつれて文句も言わずに登っていたのが印象的でした。こういう経験が必要なんだと改めて感じました。

いつも甘えてばかりの息子が、周りに励まされ一人で寝たり、先頭を歩いたり、いつも見られなかった姿を見られてうれしかったです。

「できない。ママやって。」が口癖なのに、自分から取り組んでいる姿に感動とたくましさを感じました。



野外炊事では一人ひとりがチャレンジする場があり「自分も貢献した!」という気持ちが高まっていました。

国立妙高青少年自然の家では幼児期における自然体験活動の機会として、2泊3日の「幼児キャンプ」を年に2回(夏と冬)開催しています。
今回は「物事に挑戦しようとする力」をテーマに実施した夏のキャンプを保護者の声とともに紹介します。

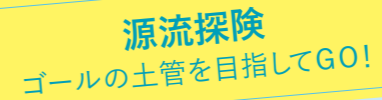


22:00	21:00	20:00	19:00	18:00	17:00	16:00	15:00	14:00	13:00	12:00	11:00	10:00	9:00	8:00	7:00	6:00	
21:30 就寝	20:00~20:40 仲良しタイム	18:45 入浴	17:45 夕食	17:15 開会式													8/17金 1日目
21:00 就寝(テント泊) 21:00~22:00 子育てカフェ		18:50~19:35 キャンプファイヤー 19:40~20:10 ナイトハイク	17:15 夕食	16:20 入浴	14:00~15:30 森の探検 (保護者はテント設営)				10:50~13:50 野外炊事			9:00~10:20 森遊び		7:00 朝のつどい 7:15 朝食	6:30 起床		8/18土 2日目
										11:50~12:15 振り返り 12:15~12:25 閉会式		9:20~11:10 源流探検	~9:15 テント撤収	7:05 朝食	6:30 起床		8/19日 3日目

” やってみよう妙高!“ を合言葉に、ここで出会った仲間や家族と力を合わせて多くの自然体験活動にチャレンジしました。やりたかったことはもちろん、やったことがないことや苦手なこと、普段は保護者にやってもらっていることなどに挑戦する「絶好の機会」となりました。
ここでの自然体験活動が、ゆくゆく育まれていく自立への糧となることを願っています。



森の探検は親から離れて、地図を持ち、とても楽しそうでした。帰ってきたときの顔や姿に感動しました。



一人っ子で自分、自分と優先する子でしたが、源流探検では仲間と一緒にゴールしたいと声を掛け合い、お友達を待つなど、成長を間近で見られてよかったです。



幼児キャンプ2018 “ やってみよう妙高! ”



MYOKOチャレンジ2018



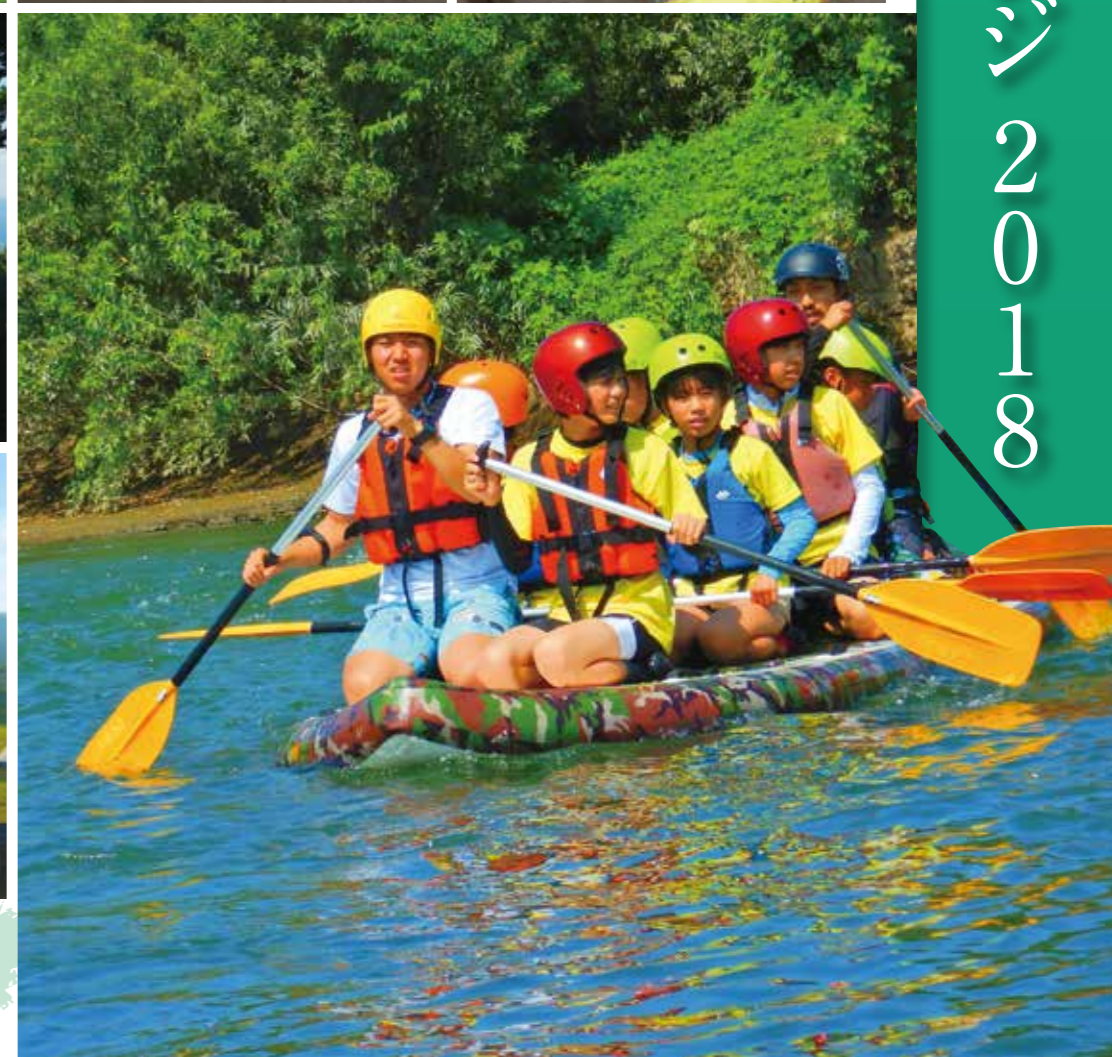
「自立する姿」を設定し、スタッフは子供たちの活動を支援していきます。

MYOKOチャレンジにおける「自立」とは、「自ら考え、的確に判断し、仲間と助け合いながらあきらめずにやり抜く」です。そして、ステージごとに子供たちの「自立する姿」を設定し、スタッフは子供たちの活動を支援していきます。

MYOKOチャレンジは、13日間という長期間をかけ、信越トレイル（全長約80km）と火打山・妙高山の登山（約20km）の合計100kmを踏破するチャレンジキャンプです。自然への挑戦を通して、一人一人が違う個性をもつ仲間として、お互いに助け合ったり、自分の力でやり抜いたりして、ゴールを目指しました。

「登山やキャンプに挑戦したい」「自然体験に興味や関心がある」「自分に自信をつけたい」「悩みを解決するきっかけにしたい」など、様々な思いをもった子供たちを支援すると共に、いじめ・不登校・ADHD等の発達障害など、今日的課題を支援する事業でもあります。

このキャンプは、事前キャンプ2日間と本キャンプ13日間の15日間を5つのステージに分けて構成されています。そして、ステージごとの目標や大切にしたいことを子供たちとスタッフが共有しながら進めていきます。



家庭や学校では、自分のことを理解して接してくれる家族や先生や仲間がいます。しかし、このキャンプでは、出会ったばかりの仲間と、慣れないキャンプ生活となります。子供たちは様々な困難を乗り越えながら成長をしていきます。

自分ができることは自分です。どうしたらいいのかを考えて仲間へ伝えたり、行動に移したりする。これも自立ですが、MYOKOチャレンジでは、自分でできないことを理解して、仲間へ「助けてほしい」と伝えて協力してもらうことも大事な自立と考えています。よって、子供たちはキャンプ生活や歩く活動を通して、「自立」と「協働」の力を高めていきます。そして、日を重ねるごとに「ありがとう」という「感謝」の言葉が自然に増えていきます。

キャンプを終えた子供たちは、自然と家族やあたりまえの生活に感謝しながら、たくましく日常生活を歩んでいきます。

「大変なことや苦しいことなどいろいろあったけど、仲間やスタッフの方がいたら、つらくても歩き続けることができました。100kmを歩ききった時には、「みんながいたからできた。」という思いでいっぱいになりました。」（参加した子供の振り返りより）





青少年ボランティアの活動



ボランティア×青少年教育
「×(かける)で起こる化学反応が、ボランティアの自立を促す」

ボランティア×ボランティア

2018年8月に実施された「ボランティア&ボランティアコーディネーターミックスキャンプ」は、全国にある28の国立妙高青少年施設のボランティアが国立妙高青少年自然の家に一同に会して交流するキャンプです。キャンプに先駆け、開催施設である妙高のボランティアはキャンプのサポートスタッフとして活躍しました。妙高の自然を活かして、源流探険のガイドをしたり、参加者とともに意見を交わしたり、貴重な体験の機会となりました。

参加したボランティアは、普段の活動での悩みや、良い活動アイデアを共有する中で、大きな刺激を受けたようです。

教育事業×ボランティア

2017年度から「はね馬キャンピン妙高」を、ボランティア自身が事業内容を考えて取り組むことができる「自主企画事業」と位置づけています。今年度も、ボランティアの有志がチームを組んで、企画会議を行い、子供たちが楽しむことのできる雪のプログラムを考えました。

キャンプを企画する体験活動は、普段のボランティア活動では得られない、主体的な体験をすることができ、自ら事業を創り上げる体験や、仲間と考えを突き合わせ、話し合う体験は、これから社会へ羽ばたいていくボランティアたちにとって、かけがえのない貴重な体験となっています。



地域×ボランティア

自主企画は、自らの「オモイをカタチ」にする機会です。自然の家でボランティアとして活躍する上越教育大学の矢口聖佳さんと中山優香さんは「さっちゃん同盟」というチームを作り、1泊2日のキャンプを企画しました。「二期狩り(いちごがり)」と題されたこのキャンプでは、江戸時代の生活をコンセプトにし、近隣の農家の方に敷地を借りる交渉をして休耕水田での泥遊びを行うなど、まさに「オモイをカタチ」にした取り組みとなりました。実際に取組んだ矢口さんから感想をいただきました。

矢口聖佳さんの話

キャンプを初めて企画しましたが、やってみて初めて分かることがたくさんありました。参加者の反応も予想していたものとの違いがあり「参加者が楽しめる企画を作らないといけない」という企画者ならではの責任も感じました。企画活動は、企画者の「オモイがカタチ」になる醍醐味があり、とてもやりがいがありました。田んぼを借りて泥遊びをするなど、今回の目標であった「誰もしたことのないキャンプ」ができ、達成感を感じました。

今回お二人が企画した事業には、全国から10名のボランティア仲間が集まりました。仲間とのつながりが、ボランティアの無限の可能性を感じさせる取組でした。



企画をした矢口さん(右下)

青少年年代の自然体験活動が「自立へ向かう力の習得」への土台となっています。

国立妙高青少年自然の家では自然体験活動の場を多くの活動プログラムや主催事業を通じて提供しています。

MYOKO SUMMER ACTIVITY

特集2

妙高 SUMMER & WINTER 活動プログラム マップ

特集2では、妙高青少年自然の家でできる夏と冬、そして通年できる活動プログラムを紹介します。

夏にできる活動

夏は、豊かな森や地形を活かした活動ができます。

2 秘密基地作り



妙高山・火打山 登山



6 妙高アドベンチャー



森のなかま遊び



源流探検



森の広場で、木登りなどの自由遊びを行います。

周辺を流れる沢の源流を探ります。

1 オリエンテーリング



野外炊事



薪を使って火を起こし、料理を作ります。

キャンプファイヤー



ファイヤーのまわりで歌や踊りやスタンプを行い、親睦を深めます。



MYOKO WINTER ACTIVITY

冬にできる活動

冬は、「雪の妙高」ならではの雪を活かした活動ができます。



深雪探険

体ひとつで、深雪の中を歩きます。



歩くスキー

所内の歩くスキーコースを、クロスカンリースキーを履いて歩きます。



かまくら・雪像づくり



ソリ・チュービング



ソリコースを楽しく滑ります。

3 スノーシューハイク



5 クラフト



五万戸林

雪上運動会



バンパレース、雪玉入れ競争、雪上綱引き等の競技を行います。

4 雪灯ろう



冬のオススメ活動

3 スノーシュー・かんじき ハイク

- ①活動時間 / 2時間～1日 (1月～3月頃)
- ②主な活動場所 / 森の中どこでも
- ③使用する道具 / スノーシュー または かんじき

グリーンシーズンの森は、人や動物が歩いたところが道になっていますが、ホワイトシーズンになると道はすべて雪の下に隠れてしまいます。そのためホワイトシーズンの森は、決められた道がなくどこでも自由に行き来することができます。

靴のままでは、埋まって歩きにくいのでスノーシューやかんじきを履いて森の中に入ってみましょう。

森の中では、ウサギ、キツネ、タヌキ、リス、ネズミなどの足跡をよく見かけます。足の形だけではなく、歩き方も動物によって違います。歩いた跡を追っていくと、動物たちが食事をした形跡や糞を見つけることもできます。運が良ければ動物たちに出会うこともあります。

他にも、冬芽の観察や、針葉樹と広葉樹の森での雪の違いなどを学ぶこともできます。

誰も歩いていない真っ白な雪原に、自分たちの足跡をつけてみませんか。



4 雪灯ろう

- ①活動時間 / 1時間+鑑賞時間
- ②主な活動場所 / 周辺
- ③使用する道具 / バケツ、スコップ、移植ごて、ティーライトキャンドル (利用者負担)、紙コップ (利用者負担)



雪灯ろうは、雪を固めて灯ろうを作り、その中にろうそくで火を灯す活動です。バケツに雪を詰めて、ひっくり返して押し出し、型を作ります。その型の横から移植ごて等を使って穴を開けます。この穴にろうそくを入れ、火を灯せば完成です。ろうそくは、細長いものよりもティーライトキャンドルが使いやすいです。さらにティーライトキャンドルを紙コップに入れることで風よけになり、火が消えにくくなります。

灯ろうを重ねてタワーのようにしたり、並べ方を様々に工夫したりすることで、楽しさが何倍にも広がります。バケツの形にとらわれず自由な発想で灯ろう自体を作ってもOKです。明るいうちに灯ろうづくりを行い、夕食等をすませた後の夜の活動として鑑賞するのがお勧めです。ろうそくの火の幻想的な光景を楽しんでいただきたいと思います。

最後に、次にその場所を使う利用者のために、ろうそくの回収と灯ろうの崩しを忘れずに行ってください。



通年できる活動

5 クラフト

- ①活動時間 / 特になし
- ②主な活動場所 / クラフトルーム (夏季のみ)・学習室・ふれあい実習室など
- ③使用する道具 / 素材を貼る木工用ボンドやホットボンド、絵や文字をかく物、新聞紙など

妙高のクラフト活動で人気のある『森の壁掛け』を紹介します。森の壁掛けでは、材料を注文すると「木材」「金具」「ひも」「紙やすり」が入っています。これ以外の材料については、みなさんと用意します。お勧めは、「森の中を散策して、お気に入りの素材を拾ってくる!」「葉っぱ」「小枝」「木の実」など、特に秋はたくさんの素材を集めることができます。拾ってきた素材を木材の上に貼ったり、立体的にくっつけたりします。木工用ボンドやホットボンドが適しています。マジックや色鉛筆やクレヨンなどで絵や文字をかいたりすることもできます。出来上がった作品を鑑賞し、お互いの作品のよさを認め合うのも素敵です。また、「森のはがき」で注文すると切手がついてくるので、妙高の思い出を書いて家族に伝えることもできます。木材の上をどんなふうにするかは自由です。個性あふれる作品を作ることができます。

妙高では、四季折々に様々な動植物と出会います。森や雪に囲まれた大自然の中でいろいろな活動ができ、多くの感動を得ることができます。

夏のオススメ活動

1 オリエンテーリング

- ①活動時間 / 1時間～3時間
- ②活動できる場所 / 自然の家オリエンテーリングコース
- ③使用する道具 / 地図、チェックカード、バインダー、筆記用具、時計→班に1つでOK。

オリエンテーリングは、地図とコンパスを使って森の中に設置されたポイントを回る活動です。チェックカードに、ポイントに示された文字を記入していきます。全部の文字を集めると、ある文章が浮かびあがってきます。回ったポイントの数や所要時間で競い合います。自然の家のオリエンテーリングは、一般的な競技性の高いものではなく、ポイントを探しながらグループで協力することを大切にしています。自然散策を目的の中心としてもいいでしょう。また、様々なアレンジも可能です。例えばポイントに指導者が待機し、回ってきたグループにお題を出す。そうした変化をつけることで楽しさが増し、グループの協力関係を高めることができます。大人数でも、グループ分けをすれば一斉に行うこともできます。森の中をたくさん歩きたい方にお勧めの活動です!



2 秘密基地作り

- ①活動時間 / 半日～1日 (6月～10月頃)
- ②主な活動場所 / ありの巣の森・第2ナラの木広場 など
- ③使用する道具 / 手のこぎり・剪定ばさみ・鎌・荒縄



妙高青少年自然の家には、曲がりくねったりななめに生えていたりする木がたくさん! お気に入りの木を見つけて、そこに秘密基地を作りましょう。まずは、お気に入りの木を見つけたら、どんな基地にしたいか仲間と相談です。設計図ができれば、森の中で材料集めや基地を作る場所の草刈りになります。手入れのために切られた木や枝がたくさん落ちているので、基地に使えるものを拾ってきます。長さを変えたり細かい枝を落としたりしたいときには手のこぎりや剪定ばさみで加工をします。

手に入れた木を、ベースとなるお気に入りの木に立てかけたり荒縄でしばったりしながら、基地の骨組みを作ります。骨組みができたなら、森の中からススキや葦などの萱や、長めの雑草を刈ってきます。その萱や雑草を使って、屋根や壁を作っていきます。

できあがったら、咲いている花を飾る、椅子になる丸太をさぐす、ロープでブランコを作るなど思いついたものを時間のある限りどんどん作っていきましょう。

自分たちの作った基地に、ナイトハイクにきて一緒に作った仲間と1日を振り返る活動などを取り入れることもできます。

6 妙高アドベンチャー

- ①活動時間 / 半日～1日
- ②主な活動場所 / 仲間作りの森を始めとする施設周辺
- ③使用する道具 / 特になし

「プロジェクトアドベンチャー」の考え方を基本理念として、妙高の大自然の中で体験学習を通して、人と人が関わりながら、生きる力と豊かな心を育み、成長を促すプログラムです。10人～15人のグループで、メンバーの緊張感をほぐすアイスブレイクをしたり、お互いのコミュニケーションを深め、メンバー間の信頼関係を築いたりすることをねらいとした活動など、グループの発達段階に応じた様々なアクティビティに取り組みます。また、妙高アドベンチャープログラムでは、アクティビティ後の振



り返りを大切にしています。アクティビティを通して思ったことや感じたことを発表し、共有することで、次のアクティビティへとつなげ、個人やグループの成長につなげていきます。

仲間とのコミュニケーション、課題への挑戦、課題を解決した際に味わうことができる達成感など、1人1人が様々なことを感じ、気付く体験をすることができます。



第7回 妙高山麗 ライン滑降スキー大会

全長3.5km(低学年2km)のダウンヒルレースです。スポーツに対する関心を高めるとともに、健康な心身の保持増進を図りました。



教員免許状更新講習

体験活動の教育的意義やその指導方法を理解し、教員としての資質・能力の向上を図りました。



感謝祭

ご利用いただく皆様に感謝の気持ちをこめて、活動プログラム体験会、ステージ発表、クラフト体験などを行いました。



自然体験活動指導者 (NEALリーダー)養成研修

体験の機会と場をつくることや魅力的な感動あるプログラムをつくること、楽しく安全に活動を指導し提供できる自然体験活動指導者を養成しました。



MYOKOボランティアキャンプ

ボランティアに取り組むために必要な知識・技能を体験をとおして学びました。



はね馬キャンプ

新潟県内の自然体験活動施設と連携し3回のキャンプを実施しました。季節や施設の特徴に合わせた活動を行いました。



2018 事業報告 Report



今年度も多くの方から当施設の教育事業等に参加していただきました。その中から一部をご紹介します。

学社共同参画セミナー

学校教育と社会教育が融合した体験活動のあり方を学びました。



妙高を支える人たち

大切にしたいこと

NPO法人 妙高山麓自然体験活動指導者会（星空観察・火山学習・炭焼き）
水野 敏明

私は、星空観察・火山学習・炭焼き、時に源流探険に関わらせていただいています。どなたも言われるように、国立妙高青少年自然の家では恵まれた自然の中で、自然を活用した様々な体験活動が可能です。ただ、自然の家での体験だけで終わるのではなく、子供たちが日常生活に戻ったときに、妙高での体験をどのように生かしてくれるか。そのために私たちの指導はどうあるべきか。という視点が大切であると考えています。私は次の点を大切にしています。

- ① こちらのペースで一方向的に話さないこと。
- ② 可能な限り子供が考える場を作ること。
- ③ 自然を観察する時の視点となる手掛かりを与えること。



星空観察での具体例としては、「自分が立っている位置での東西南北を確認すること」「その日の一番星を見つけること、そしてそれが何かを知ること」「主な星座を確認すること」「星の動きを予想すること」これらを子供たちとの対話を重ねながら進めています。家に帰った日の夜に、「あの星はね」と家族に話している子供の姿を想像しながら……



協賛企業等紹介

国立妙高青少年自然の家を応援してくださる企業や団体、地元の商店の皆様には、日頃から子供たちの活動や自然の家の活動にご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

今年度は、感謝祭や統合型長期チャレンジキャンプ「MYOKO チャレンジ」、第七回妙高山麓ライン滑降スキー大会などへの支援や、来所者を迎える花壇を整備する活動にも使わせていただきました。誠にありがとうございました。

2016年度～2018年度

【協賛金・支援金をいただいた方々】

- (有) アイビーオート、朝日酒造(株)、家、Sハセガワ(株)、岡本石油、頸南バス(株)、国際自然環境アウトドア専門学校、小山(株)新潟営業所、JAえちご上越関山支店、新星建機工業(株)、(株)スワロースキー、関温泉組合(株)第一印刷所上越支店、(株)高館組、特定非営利活動法人NICE、新潟みらい建設(株)上越営業所、(株)西脇電気商会、(株)ニッコトラスト、(株)浜田材木店、(株)深松組上越営業所、(株)藤田建設、(株)松橋建設、妙高観光開発(株)妙高カントリークラブ、妙高建設(株)、(株)渡辺リネン



【寄付品等のご支援をいただいた方々】

(株)伊藤園上越営業所、WEST上越店、ウチダスポーツ、大原屋、休暇村妙高、(株)キュービットバレイ、グリーンパル高原荘、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)上越支店、四季彩の宿かのえ、信越トレイルクラブ、杉野沢観光協会、スーパースポーツゼビオ上越店、戸狩観光協会、(株)橋詰商会、POWERDRIVER117、斑尾高原ホテル、妙高観光開発(株)妙高スキーパーク、糸しんの里やすらぎ荘

楽しさ実感指導を

NPO法人 妙高山麓自然体験活動指導者会 副理事長
大日方 義久

技術優先でなく楽しさ重視の指導を心掛け、都会の子供たちと一緒に滑ってきました。

歩く、滑る、緩い斜面で滑る、止まる。これが出来たらすぐリフト。最初は抱えて乗車。スタート地点は急なので、少し下り平地で履き、トライなど使ってブルークで出発。コーチは後ろ向きジェスチャー大きく、止まり、ターンを指示。コケたらスキーを脱いで履き、続行。これを繰り返すゆくり下ります。

ゴールに到達した時の子供たちの目は輝いています。数を重ね到達に併せて斜面を変えていけば技能は向上し、スピードもついてきます。1日の終わりに全員がツアーコースを滑走できるようにになりました。子供たちにとって、この体験は一生の宝です。



振り返りでは全員が「楽しかった！また来たい！」と言ってくれました。子供たちの嬉しさは指導する私の感動にもなりました。



【編集後記】

釣った魚を与えるより、魚の釣り方を教えた

今年も雪が降り、自然の家のフィールドではそり・チューブ滑りや体一つでフカフカの雪の中を行く深雪体験を楽しむ子供たちの声が響いています。

自然の家では、「体験活動を通じた青少年の自立」を合言葉に妙高の山・森・沢などの自然を活かした四季折々の活動が沢山あります。その体験活動の中で大切にしていることは、「釣った魚を与えるより、魚の釣り方を教えた！」ということ。AIやデジタル技術が進み、Siriやアレクサに頼むと色々調べてくれたり、気の利いた音楽も流してくれます。その他、車の自動運転も夢物語では無くなってきており、今まで人間がやっていたことを機械が自動でやってくれる世の中になりつつあります。様々なデバイスを活用する力は今を生きる私たちに必要な力ではありますが、それは釣った魚を与えられているだけなのではないでしょうか？

妙高青少年自然の家の体験活動には、体験そのものや人と人が関わることで生まれる「見えない力」が沢山あります。その見えない力を積み重

ねることが、「魚の釣り方」を知ることにつながると思っています。体験活動を通して自分自身がどう考え、どのように行動し、どう人と関わっていくかなど、その人が成長していく過程で普遍的に通用する力になるのではないのでしょうか。幼児キャンプやってみよう妙高では沢山のやってみる仕掛けで、出来た時の子供たちの満足そうな笑顔、MYOKOチャレンジでは、「私が100kmを歩けたのは仲間がいてくれたから」という、人と協力し信頼する気持ちなど、見えない力の中に、大切なことが沢山詰まっています。

お陰様で2018年度も無事に幕を閉じられそうですが、6月に発生した高圧ケーブル故障のために停電した際に、ご利用いただきました皆様にはご心配とご迷惑をおかけしました。本年度、妙高青少年自然の家に関わっていただきました全ての皆様に感謝を申し上げますとともに、体験の力を最大限に発揮できる施設運営を心掛けていきたいと思っています。

国立妙高青少年自然の家

次長 桑山 宗大

1
Info

オリエンテーリングコースを
整備しました!

この度、(一社)前橋林業土木協会新潟支部高田分会様ほか妙高市内からも多くのボランティアの方々からご協力を得て、ぬかるみに悩まされていた部分に遊歩道を整備していただきました。

毎年多くの子供たちがオリエンテーリングコースとして遊歩道を利用しています。歩きやすくなったコースで何が見つかるでしょうか。



2
Info

プレイホールの天井が
新しくなりました!

プレイホール天井落下防止の工事を行いました。緩衝材や防火材の使用により、地震、火災等の際、より安全性が増した天井となりました。

また、照明もLEDに一新し、明るさが増しました。新しくなったプレイホールでより快適に活動ができるようになっています。



3
Info

家族で自然の家に泊まろう
「妙高の自然に親しむ会」をご利用ください。

自然の家の利用は学校や青少年団体での利用が原則ですが、「妙高の自然に親しむ会」に入会することで、家族で利用することができます。

- 対象 象 / 青少年(29歳以下)がいる家族
- 入会手続き / ホームページ上の「ご利用にあたっての注意事項」をご承諾のうえ、お電話またはWebで利用の予約をしてください。(利用日の6か月前の月初めから可能です。)その後「入会申込書」を自然の家に郵送かFAXで送付してください。

- 会費 / 無料
- ※利用にあたっては当施設の自然体験活動を行っていただくことが必須となります。また、活動場所は他団体・他家族と共有になる場合があります。
- 自然とかかわるきっかけとして、ご家族の皆様で、ぜひご利用ください。
- ※目的をもって活動する団体であれば、どなたでも利用いただけます。学校・青少年教育団体以外の団体は、施設使用料が発生します。



ご意見・ご感想を
お寄せください。

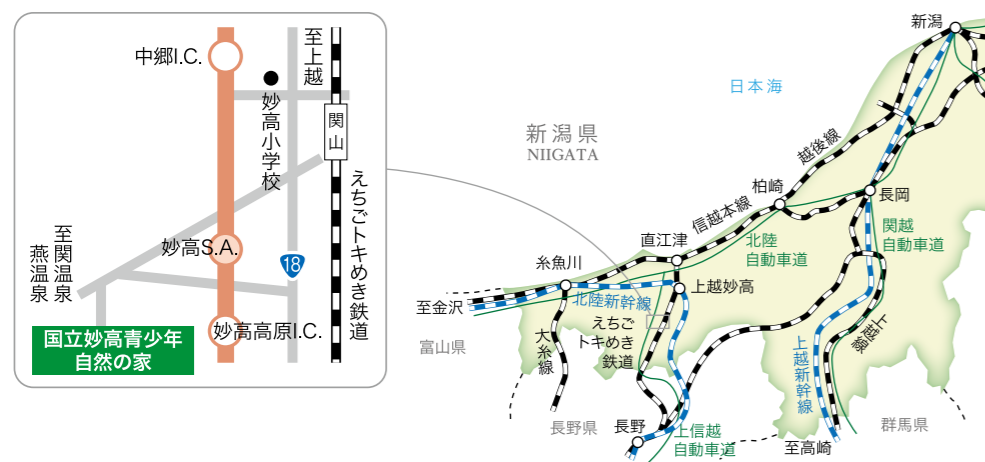
〒949-2235
新潟県妙高市大字関山6323-2
TEL 0255-82-4321
FAX 0255-82-4325
E-mail myoko-so@niye.go.jp



ホームページもご覧ください。
<https://myoko.niye.go.jp/>

国立妙高

アクセス
マップ



施設を利用するまでの流れ

- 1 お電話による利用申し込み予約(受付開始時期は団体種別によって異なります。)
- 2 申し込み書類の提出(利用日の一か月前まで)
- 3 自然の家職員との事前打ち合わせ(利用日の一か月前が目安)
- 4 利用日当日

2019年度 事業案内

- ・MYOKO チャレンジ2019
- ・幼児キャンプ2019
- ・はね馬キャンプ
- ・国立妙高青少年自然の家感謝祭
- ・学社共同参画セミナー
- ・生活・自立支援キャンプ
- ・教員免許状更新講習
- ・妙高自然体験活動指導者養成研修
- ・自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成研修
- ・MYOKO ボランティアアキャン
- ・ボランティア育成プロジェクト
- ・親子トレンディ体験会
- ・Xmasケーキ作り